

作成日	2019年 7月 5日
学科・専攻名	生活福祉学専攻

教育課程・学習成果

1. 教育課程編成・実施の方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成していますか。

【現状説明】

学士課程での学修を基礎としつつ、基礎科目群、分野科目群、研究指導の3科目群から構成され、すべての科目群から所定の単位を取得する。基礎科目群は、本専攻の学問的基盤を理解するために福祉に関連する事項を多角的に学ぶ科目を配置しており、所定の単位を必修としている。分野科目群は、学生の研究分野をより深く探求するために福祉、介護、健康科学、生活科学、社会諸制度などに関連する科目を設定し、個別研究の進展を期する群として履修を求めている。以上をもって研究の成果を修士の学位論文として作成する。コースワークだけでなく、演習、研究指導、修士論文の指導を通したリサーチワークにより、高度な知識と研究手法を体得しうる教育課程を体系的に編成している。

【成果および向上施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

2013年度以後入学者がなかったが、2017年度1名の社会人の入学者があった。入学者は長期履修（3年）で、今年度は最終年度であり、研究計画に従い、修士論文作成に向けて、研究を進められるように教育体制の整備を行っている。

【課題および改善施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

特筆すべき事項なし

2. 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための措置を講じていますか。

【現状説明】

シラバスに授業の到達目標、授業の概要、授業計画、評価方法、授業時間外の学習、学生へのメッセージ、教科書・参考書の明示、京女AL区分などを明記し、学生が主体的に学習するように設定している。またコースワークとして、講義科目、演習科目を設置しており、大学院生はこれらの履修を通じて修了に必要な単位を修得している。論文作成にあたっては個別指導を行い、学会・研究会での発表を通して、リサーチワークによる指導を行っている。また、指導計画については新入生オリエンテーションにおいて院生に明示すると共に、研究計画書及び各授業において学生の研究内容や成果に把握することができるようし、学生の研究指導と、効果的な教育の実施に役立てている。

【成果および向上施策】

特筆すべき事項なし

【課題および改善施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

授業方法の工夫により学生の研究活動の活性化を図る。

3. 学生の学修成果を把握し、教育課程及びその内容、方法の適切性についての点検・評価を行っていますか。また、その結果をもとに教育の質向上に向けた取り組みを行っていますか。

【現状説明】

講義科目、演習科目の学修成果の把握・評価については、指導教員のもとでの研究指導において実施されている。また修士論文については研究計画書を基にその状況を確認している。また毎年度、次年度の時間割作成の際に、カリキュラムの妥当性、担当者の選定などを専攻会議で検証している。

【成果および向上施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

長期履修学生は今年度、修士論文を作成し、修了の予定である。

【課題および改善施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

新たな院生の入学、専攻の目的の実現のためカリキュラムの更なる改善が課題である。

教員・教員組織、FD

1. 教員組織の編成(募集・採用・昇任等)にあたって、職位構成および年齢構成の偏りに配慮した編成をおこなっていますか。また、カリキュラムに基づく教員組織となっていますか。

【現状説明】

専攻担当教員は、指導教員4名、指導補助教員3名の体制となった。カリキュラムとの関連については、カリキュラム・ポリシーを踏まえ、福祉、介護、健康科学、生活科学、社会諸制度の領域で構成されるカリキュラムに対し社会福祉学、介護福祉学、健康科学、生活学等を研究分野とする教員を配置しており、カリキュラムと各研究分野が整合している。

【成果および向上施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

特筆すべき事項なし

【課題および改善施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

特筆すべき事項なし

2. 学科・専攻独自の FD 活動を実施し、教員の資質向上に取り組んでいますか。

【現状説明】

生活福祉学専攻として独自 FD は実施していないが、学科、全学の FD として参加している。教育活動（授業の分かりやすさ、履修指導等）に対する学生の満足度については、大学院生アンケートを基に検証している。

【成果および向上施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

特筆すべき事項なし

【課題および改善施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

特筆すべき事項なし

内部評価委員会からの評価結果（内部評価結果レポート）

一般的なコメント（総評）
適切な点検評価が行われています。課題の設定も適切です。認証評価の指摘事項に関連して、2019 年度から全研究科に共通する基本的な指導計画が大学院生に明示されていますので、今後記入してください。
改善勧告コメント（具体的な改善の指示）

内部評価結果レポートの改善勧告コメントに対する点検単位の意見

意見
教育課程・学習成果 ² の現状説明に、院生指導計画についての記載を加筆した。（内容については下表参照）

2019 年度 点検シート（個別の視点）

学年	月	指導内容
1 回生	4 月	<ul style="list-style-type: none"> ・「大学院の人材養成・教育研究上の目的」の説明 ・指導教員と協議の上、主要研究領域の選定、確定 ・主要研究領域に関する調査研究／関連領域に関する調査研究
	5 月	・「研究課題及び研究計画書」の作成・・・5 月末提出
	12 月	・修士論文研究テーマ候補の選定
	1 月	<ul style="list-style-type: none"> ・指導教員と協議して修士論文研究テーマの選定 ・研究テーマに関する調査研究
2 回生	5 月	<ul style="list-style-type: none"> ・「研究課題及び研究計画書」の作成 ・「修士論文題目」の提出・・・ともに 5 月末提出
	1～2 月	<ul style="list-style-type: none"> ・指導教員の許可を得て修士論文提出・・・研究科ごとに提出期限が異なる ・論文審査、大学院最終試験の実施
	3 月	修士学位授与